

ハンドボール No.30

Japan Handball Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 県協会

- 全国大会
- ブロック大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 **合志-男30**

年月日 2019年8月5日(月)
大会名 令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

公式記録用紙

A 県立小林秀峰高等学校						B 広島山陽学園山陽高等学校						
熊本県		合志市		合志市総合センターヴィーブル				2回戦				
前半	A 12	B 7	最終結果	A 24	B 19	第1延長		第2延長		7mλ0-シフツ	A	B
7m得点/総数	A チームタイムアウト			B チームタイムアウト			7m得点/総数					
1/1	1 2949	2	3	1 0538	2 1331	3 2437	3/3					

No.	県立小林秀峰高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	広島山陽学園山陽高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	槽松 美勇士							1	風呂内 海渡						
2 C	大川 陸	6						2	管野 睦己	1	1				
3	北林 滉生	2						3	三登 淳矢						
4	本田 琉亜良	3						4	森野 亮	2					
5	丸尾 善太							5 C	河野 想大	4					
6	瀬戸口 真斗	2	1					7	宗本 華輝						
7	真方 駿	3						8	山本 奨之						
8	河野 琉星	4						9	大野 凌						
9	築瀬 航							10	有松 治人	11					
10	北ノ園 海人							11	中村 蓮也			1			
11	野間 和成	4						12	岡向 天空						
13	前田 俊貴							13	岩崎 奏磨						
14	鈴木 稜也							15	望月 郁矢						
16	河野 陽向							16	山崎 亮太	1					
役員A	川野 敦史							役員A	佐々木 皇介						
役員B	宮島 隆二							役員B	竹本 浩						
役員C	薮田 卓磨							役員C	小川 尚之						
役員D								役員D							

A	川野 敦史	チーム役員A署名	佐々木 皇介	B
---	-------	----------	--------	---

レフェリー	河合 威廷	臼井 健	河合威廷 臼井健
TD	福島 亮一	田中 一則	福島亮一 田中一則
MO			

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR) 特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール No.32

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 5日 月曜
会場	合志市総合センターヴィーブル
種別	男子
回戦	2回戦

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名
		小林秀峰	24	12-7 後半 12-12	19
	第1延長		第2延長		7MC
	—		—		—
	—		—		—

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	山陽は足を使ったアグレッシブなディフェンスとスピードが持ち味のチームである。立ち上がり山陽は小林秀峰の堅いディフェンスを攻めあぐね、得点することができない。一方小林秀峰は、大川のロングシュートや速攻で得点を重ね、5分で4-0となる。山陽は流れを変えようとタイムアウト。山陽は高いディフェンスに切り替え対応を試みるが、小林秀峰の勢いを止めることができない。その後小林秀峰は順調に得点を重ねるかに思われたが、山陽GKの好守にはばまれ、思うように得点を伸ばすことができない。山陽は有松のロングシュートや河野のカットインで追い上げをはかり、3点差まで詰め寄る。しかし、小林秀峰本田、瀬戸口、河野(琉)らの速攻で得点し、前半を12-7で折り返した。
	後半	後半に入り小林秀峰は山陽を突き放しにかかるかと思われたが、パスミスや山陽GKの好守にはばまれ得点を伸ばすことができない。その間山陽は菅野のサイドシュートや山崎のポストシュートなどで得点を重ね、17分過ぎには3点差まで詰め寄る。その後互いに点を取り合う白熱した展開となり、24分過ぎ4点差となったところで山陽のタイムアウト。何とか巻き返しをはかりたい山陽であったが、小林秀峰の守りをなかなか崩すことができず攻めあぐねる。27分過ぎからマンツーマンディフェンスを試みるも小林秀峰に得点を許し、24-19で試合を終了した。山陽は小柄ながら、スピードあふれるプレーで、最後まであきらめない姿に好感が持てたゲームであった。

記入者	四宮 一郎
-----	-------